

日 時	平成 31 年 2 月 7 日 (木) 13:30~15:00
場 所	保健所・保健センター 第 1 会議室
出席者	豊橋市地域保健推進協議会生活習慣病対策部会委員 6 名
事務局	健康増進課
委員 E 事務局	議題 (1) 女性がん検診の受診率向上について 集団検診の申し込みは定員を超えることがあるか。 集団検診については、予約制をとっていないため基本的に受け入れている。ただしセット検診、商業施設の検診については予約制をとっており、予約がいっぱいになることがある。
委員 F 委員 A 事務局 委員 A	セット検診の需要が多ければ、増やしていくのはどうか。 集団検診の回数を増やすことは可能か。 日程調整が難しい状況で、回数を増やすことは難しい状況である。 集団検診が定員一杯であり、回数も増やせないなら、医療機関での検診を考えていくことになる。現在の医療機関の数で、受診者数が増えても、対応できるか。
委員 B 委員 A 事務局	分散すれば可能だが、1月に集中してしまうと厳しい。 再勧奨はどのようにしているのか。
委員 F	子宮がんと乳がんの無料クーポン券対象の 21 歳と 41 歳の人だけに 11 月頃に実施している。1月に受診者が増えるのは、21 歳と 41 歳のみではない。
委員 D 事務局 委員 D 委員 F	では、実際に 1 月に増えるのは終わりに近づいてからという時期的なものと分析されることになる。受けない人をどう受けさせるか、受けた人がどう受けるか、市民の意識を把握するという 3 つの別の視点で考えなければいけない。自治体の取り組みで成功している事例を把握し、アプローチしていってもらいたいと思う。
委員 D 事務局 委員 D 委員 F	受診率が高い地域を参考に市の調査をするのはどうか。 今年度、全国の中核市に調査をしたが、実施方法に差がなかった。 がん検診に対する市民の意識をあげることを考えていった方がいいのかもしれない。
事務局	受診者に近くの人へ受診するよう伝えてほしいとお願いすることはできるのではないか。市民の意識の実態を把握する方法があるのか。例えば検診票を送付するときに返信はがきを入れて、受診状況を把握する。また、未受診理由を聞くと次の対策も立てやすくなる。意識の高い人の意見しか返ってこないということもあるが、1年間かけての調査もできるか。
委員 A 委員 C 委員 A 事務局	検診票に返信用アンケートを同封することも考えていきたい。 医療機関の受付でご協力いただき、受診者にアンケート調査をすることは可能か。 受付で待っている間にアンケートを書くよう渡し、診察時に回収すれば可能だと思う。 そのアンケートで、受けてもらうにはどうしたらよいか意見を聞くのも良い。 待っている間に 1 行でも 2 行でも書いてもらえれば情報にはなると思う。何か情報を収集すれば、アイデアが得られるかもしれない。
委員 A	直接がん検診と関係ないが、妊婦健診の中でも子宮がん検診をやっている。 集計には反映しないが、20 から 30 歳代の約 3000 人が、これ以外にも子宮がん検診を受診している。妊婦健診を受けたら、その後も継続的に婦人科に行って子宮がん検診を受診していけたらよいと思う。
委員 A	妊婦健診は受診率が良いため、そこでアンケートや啓蒙のパンフレットを配れば受け

	てくれるのではないか。
事務局	妊婦健診が終わり産後1年たった後から受けていない現状がわかったため、今後もアプローチしていきたいと思う。
委員E	分娩後の1か月健診に、今回は妊婦健診で受診したが今後は市の検診で受けてくださいと受診勧奨することは難しいことではない。1年に3000人ほどの出産がある。
事務局	乳がん検診の医療機関受診はどのくらい受け入れができるか。マンモグラフィの受入数を教えていただきたいとした場合、回答をいただけるのか。
委員C	問題ない。
事務局	子宮がん検診は若い方の受診が少ないということもあって、検診票を病院に置かせていただいて気軽に受けることは可能か。
委員B	医療機関に検診票を置いておき、医師の判断でその場で受診出来たらもう少し数が増えるのでは。おそらく産婦人科のクリニックのドクターに協力してもらえと思う。
事務局	子宮がんの方は他の症状で受診することがあるが、乳がんはこの方法はどうか。
委員E	診察で来る人に説明して勧奨することはある。
事務局	すべてのがん検診でやるという話ではないため、まず子宮がんについて医療機関に検診票を置く方式は少しずつ話を詰めていきたいと思う。その結果で他のがん検診についても実施を考えていきたい。
	議題(2) 女性がん検診の精度管理について
事務局	厚生労働省から国立がん研究センターが委託を受けて、毎年市町村にこのようなチェックリストがきて回答をしている。
委員A	豊橋市では要精密検査の受診率はかなりよいのではないか。
事務局	愛知県内でもかなり精密検査受診率は高い状況である。医療機関が地元にあるということも大きいと思う。豊橋市は医療機関が充実している。
委員E	子宮がん検診は綿棒で採取している。綿棒での採取は要精検率があがる。検査器具の指定などチェックリストにあるのか。
事務局	チェックリストにはない。
委員F	仕様として、医師会との契約時に器具指定をしてはどうか。
委員B	田原市は器具指定で検診している。
委員A	実施要領にいれるというのはどうか。
事務局	チェックリストに付け加えてもいいと思う。体制として、市と検診委員会と一緒に精度管理委員会や部会をやっていくことに関してどうか。今回は女性がんということでお集まりいただいているので、子宮がん乳がんについてはどうか。
委員B	子宮がん検診委員会に市の担当者が来ていただけると、その場でフィードバックができる。委員会と精度管理委員会を同時開催して、年1回としてもらえると助かる。
事務局	事前に会の前に、報告する資料をご相談させていただきたい。
委員A	各がんの委員会は、年度末には集計を確認して申告しているが、そこに市の担当がきてもらえるといい。
事務局	チェックリストを個別の医療機関の先生方が全体と比較してどうかわかるようにお返しできたらいいかと思っている。まずはそこからスタートだと思っている。できることから一つ一つ詰めていき、少しでも受診する方が多くなるよう努めていきたい。また精度管理についても一つ一つ確認していき精度があがるように、市民の方にとって良い環境が作れたらと思っている。